**突如ど真ん中に 2018 01 14**

**ヨハネ1:43-51 スティンストラ牧師**

皆さんがナタナエルについてどれほど知っているのかを知らないが、教会に来ても礼拝が終わって家路に着く時にはもう二度とあの一時間の礼拝のために教会に戻って来るようなことはしたくないと思ってしまう人々の代表者としてうってつけの人物だ。そしてナタナエルは日曜の朝に礼拝に来てもいつも同じ年老いた人々の顔が並んでいるのを見てうんざりしてしまうような人々が、神が全く新しい方法でついに顕れてくださったと信じれるようになり、希望を持って生きることができるようになる人々のための聖人になったとも言えるのかもしれない。弟子たちの一人トーマスは、「疑い深いトーマス」として知られるようになったが、ナタナエルは残念ながら近年多く見かけるようになった教会に来ても満足しない人々を代表する「不機嫌なナタナエル」とでも呼べるのかもしれない。彼はどんな物事に対してもあらかじめ批判的な視点をいだいて接近していく傾向がある。彼は幻滅してしまうことばかり考えて、重要な約束が達成されるなどとは信じられないのだ。彼は宗教的な習慣に失望させられていると感じており、最も困難な時代を神への信仰第一で生き抜こうとする人々のことを非常に疑っているのだ。

だから親友のフィリポがある日ナタナエルに近づいて、ナザレのイエスという新しい教師がどんな人か知るために一緒に会いに行かないかと誘っても、彼は全く熱意を示さない。彼はナザレのような田舎町から何か良いものが出てくるなどとは全く考えなかった。その教師が、律法と預言の書に記載されていた油注がれた人で待望の救い主であり、人生にいつも不機嫌になってしまい幻滅していたナタナエルをも、その悲惨な状況から解放して助けることができる人であるなどとは思えなかった。フィリポから聞いたイエスについての輝かしい報告も、悲観的になることに慣れきってしまていたナタナエルの態度を全く変えることはできなかった。コップには半分しか入っていないとか考えるようなことすらもしない男で、彼はただの否定的に考えることだけを学んできて、開眼するなどということは考えもしなかった。しかし、彼自身にしかわかっていないことだったが、何らかの理由で彼は完全にあきらめることはできていなかった。それで、彼はフィリポの旅路へとついて行く。それでも何も期待せずになんでも批判する態度に変わりはなかった。そしてもちろんこのイエスという教師がナタナエルのために答える時が来たと祈っていたなどということも信じていなかった。

ナタナエルは懐疑主義をイエスから隠そうとはしていなかったため、主イエスは彼に目を向けた途端にその態度だけでなく彼の心の中も読むことは簡単だった。だから、イエスは寛大に彼を迎えた。イエスは言う、「ああ！ここに、神が愛している偽りの無い民の一人がいる。信心ぶった笑みを浮かべてやってくるのではなく、曲がった根性を心の奥底に抱いてもいない、心から純粋な人だ。」 イエスは彼を見てその正直さを褒める。それは彼がこの出会いから何か良いことにつながる希望をいだいているかのようなそぶりを一切見せていない正直さだ。彼はイエスが言わなければならないことを聞くまでのことはしたが、だからといってイエスこそ神が約束していた救い主だなどというフィリポの興奮した結論に至る気持ちにはなれていない。主イエスは、ナタナエルが過去何回も神が彼の人生に顕れてくれるのを待ってきたが顕れなかったと思っていたことを感じ取っていた。なのでその状態が今あまりにも簡単に覆されてしまわないように、イエスはナタナエルの誠実さを尊重した。

すぐに適合してしまうようなことはないナタナエルは、イエスがいったいどこで自分のことを知ったのかを要求してきた。フィリポがナタナエルを見つけようとした時、彼がイチジクの木の下に座っているのを見たと主が言った時、ナタナエルは自分が全く期待していなかったことを一時的に忘れるほど驚いていた。どういうわけかイエスはナタナエルについて十分に知っているように見え、ナタナエルにとっては単純なイエスの発言が、彼が本当に誰であるかわかるのに十分だった。私たちは彼が見解を変えたことを内々にしておくわけにはいかない。ナタナエルは自分の人生を変えてしまう救い主キリストに出会ったのだ。全く予期していなかったが突如としてど真ん中につながって、ナタナエルはイエスが先生ではなく救い主であることが分かった。彼はイエスの中に神を、その民が待ち続けて来た驚くべき御方を、見ている。瞬時にして、これまでいつも失望して否定的にしか見ることができなかった人物は、信仰のため熱狂的なスポークスマンに変身している。彼は今やイエスについて感情あふれんばかりに宣言して、いくつ感嘆符があっても足りないかのごとくだ。イエス自身ですら、ナタナエルの突然で止めようもない信仰告白に驚いているようで、事実上イエスはこんなことを言っている。「ワウォー！　イチジクの木の下であなたを見たといったのがすべてだったのか？　まだこれはほんの始まりであり、しっかり待っているが良い。あなたがたはこれよりも多くのことを見るだろう。」

しかし、この類の出会いは、絶望から私たちを救い出すものではないだろうか？予期せぬビジョンは私たちの性格を変えてしまい、必ず希望を持って生きることが可能になる。少なくとも広告業界が本質的にやっていることは、そのようなビジョンを見せることで効果的なコミュニケーションを可能にしている。昔の話だがテレビCMでメルセデスが行ったり来たりする映像を繰り返しホリデーシーズンに見ることで、豪華な車を所有するという夢がいつか現実になると誰もが信じるようになる。新しいメルセデスをものすごく欲しかった男の子が、クリスマスの朝起きて、ドライブウェーにメルセデスが停車しているかどうか確かめるために、興奮して窓から外を見るのだ。しかし、そこには何も停車しておらず、雪の上にはタイヤの跡すらもなかった。幼年期、思春期、そして大学へと進学するにつれ何回もクリスマスの朝が過ぎていった。毎回、ベッドから飛び出して窓へ突進しそして落胆した。彼が父親となりもう可能性はほとんどないと感じ、朝起き上がる熱意もなくなってしまうまで、クリスマスの朝の落胆は続いた。その時にすばらしい贈り物が彼に届いたのだ。彼はもうそんなものは欲しくないんだと自分に言い聞かせようとしていた、しかしナタナエルのように夢を完全にあきらめることはできないことに気づいた。そして、あるクリスマスに、彼が若かったときに起きた時間よりもっと遅い時間にベッドから起き上がり、ベットルームを出て居間にいる家族といっしょになろうとする前に、期待はしていないものの、毎年の習慣となってしまったドライブウェーをカーテンの間からちょっと見るということをした。そこにはまたもや雪で覆われたドライブウェーだけが見えるだろうと思って一目見た。しかし今回は、そこをただ通り過ぎようとしても、突然として何かがパチッとフォーカスされるのだ。それは彼の懐疑的な心の中に、美しい新しい赤いメルセデスの信じられないほどの光景が入り込んできて、これまでの落胆は報いられる。

同じような感覚でキリストとの出会いがやってくる。異なる人々に、全く異なるあらわれかたでやって来て、それがキリストとの出会いであるとは理解できないことさえある。しかし間違えないで欲しい、聖なる体験をすることは神の民みんなに可能であり、その状態は続いている。それは個人的に激しい苦悩を体験しているような夜中に、主があなたの側にぴったりついてくださっているということが確かであるということを思い起こさせるために内なる声となって現れるかもしれない。それは目をくらます光の中からあなたをひざまずかせて、死ぬのではないかと思う恐怖感さえ覚えさせ、全く抵抗できない神の意思を伴った眼前で起こる神との出会いかもしれない。しかしまた、人々の間に共通な幻滅感がただよう中に侵入してきた時に起こるかもしれない。そして皆さんはナタナエルのように瞬時に天と地のギャップがつながったことと、主が神の義なる秩序をもって統治をはじめるために来たということに気づかされる。皆さんは神がいったいどういうお方であるかを見るようになり、ナタナエルのように、天と地の間のギャップが実際に橋渡しされていること、そして主が世界は彼の正義を打ち立てることを知る。あなたがたは自分が本当に誰であるかについて神を見て、その過程であなたがたが本当に誰であるかを学ぶだろう。そしてあなたが会いたいと思ってきた天の父を見出して、あなたがこれまでに気がつかなかったこの世に創られて生きていくためのアイデンティティーと生きる目的についても見出すことになるだろう。そしてあなたはどのようなことが起こっても準備万端となるだろう！アーメン。